ペインクリニック
整形外科

痛みの診断を行い、痛みそのものを取り除く専門治療

ペインクリニックの治療について

お答え
古城クリニック
古城繁 院長

■プロフィル　昭和33年4月生まれ。昭和59年岡山大学医学部卒。平成7年～19年、福山光南病院勤務。平成19年、古城クリニック開院。麻酔科標榜医、日本麻酔科学会麻酔科専門医
＜メモ＞☎084(971)7335(野上町3-6-3)
http://www.kojou.jp/

「古城クリニック」の古城繁院長に、「ペインクリニック」の治療について聞きました。

Q　ペインクリニックとは何ですか。

A　指を切って痛い、胃潰瘍でおなかが痛いなど、痛みは体の異常を知らせる警告の役割を果たしています。こうした痛みがあるから私たちは、けがや病気に気付き、危険を回避できるのです。普通、治療はこの痛みの原因に対して行いますが、〝痛み自体〟が問題となる病気もあります。そんな痛みそのものを取り除くのが、疼痛（とうつう）専門外来（＝ペインクリニック）です。痛みの診断を行い、神経ブロックという手技と、内服・理学療法を組み合わせて治療を進めます。

Q　神経ブロックとはどういうものですか。

A　「ブロック」とは神経の働きを一時的に遮断するという意味です。痛みで血流が低下すると、浮腫や痛みを強くする発痛物質が蓄積します。これが痛みをさらに増強させる〝痛みの悪循環〟で、頑固で強い症状の原因となります。

神経ブロックは知覚神経をブロックして痛みを和らげ、血管を収縮させる交感神経をブロックすることで血流を良くし、痛みの悪循環を遮断、自己回復を促すのが目的です。例えば、硬膜外ブロックは、効果の期待できる所（硬膜外腔）まで細い針を挿して局所麻酔薬を注入し、知覚神経と交感神経を両方ブロック。効果は1時間程度ですが、痛みの悪循環を断つことで回復を促進します。ブロック後に楽になってきますが、それは体が回復しているから。1回でやめてしまうのではなく、繰り返すことで効果が出てきます。使用する局所麻酔薬は副作用も少なく、体からはすぐになくなります。鎮痛薬を内服するよりも副作用が少ないと思います。肝臓や腎臓が悪くて鎮痛薬を飲めない人、糖尿病、高血圧がある人も安全にブロックできます。

ただ、血液の抗凝固薬（血をサラサラにする薬）を飲んでいる方はブロックができない場合があるため、必ず「お薬手帳」持参で受診してください。

ペインクリニックの対象となる主な病気

①腰痛、足の痛みやしびれ＝腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、変形性腰痛症、ぎっくり腰など
②首の痛み、手の痛みやしびれ＝頚椎（けいつい）椎間板ヘルニア、頚椎症など
③慢性頭痛、肩凝り、膝や肩の痛み
④帯状疱疹（ほうしん）や帯状疱疹後神経痛など
⑤三叉（さんさ）神経痛、舌咽神経痛
⑥その他＝顔面神経麻痺（まひ）、眼瞼痙攣（がんけんけいれん）など